

III 個別指導の実践報告

本章では、個別指導の実践として、小学校男子児童2名と中学校女子生徒1名を対象に対する指導経過と成果について報告する。個別指導の実践は、小中学校における教育課程外で独自に設定された。指導方針として、対象児童生徒の学習上のつまづきを特定し、その改善を目指した。その際、指導内容に関しては、個別指導実施期間中の集団指導（授業）における内容との関連に配慮した。併せて、指導方法に関しては、対象とする児童生徒の認知特性を踏まえ、個別指導担当者及び参与観察者による個別指導の実践中における試行錯誤をもつて開発し、ブラッシュアップした。

なお、対象とする児童生徒は、先述した集団指導（II 集団指導の実践報告）における対象でもあることから、把握した児童生徒の実態や有効な支援方法に関する知見は、参与観察者を通じて共有し、活用した。

■ 対象児童生徒と個別指導の実施形態

対象は、通常の学級に在籍するA小学校5学年、男子児童2名（児童D、児童E）とI中学校2学年、女子生徒1名（生徒M）の計3名である。対象児童生徒は、いずれも算数及び外国語活動または数学及び英語において、学習面の特異的な弱さがあり特別な配慮や指導が必要であるとして学級担任または教科担任によって判断されていた。個別指導にかかわり把握した実態は、それぞれ後述する。

対象児童生徒の個別指導の実施形態を表1に示した。毎回の個別指導の実施に際しては、個別指導担当者1名が対応した。対象児童生徒の実態に応じた内容及び方法を独自に設定し、随時、参与観察者との協議をもって検討した。

表1 指導の形態

対象	指導の形態	会場	主な内容
児童D	週2回（月、金） 60分／回 各回の内訳：算数30分、 外国語30分	岩手大学 教育学部、 演習室	・算数：計算分野（整数と小数の関係、小数の掛け算・割り算）、図形分野（図形の性質、角度、図形） ・外国語活動：アルファベット及び単語の読みと意味
児童E	週2回（月、金） 60分／回 各回の内訳：算数30分、 外国語30分	岩手大学 教育学部、 演習室	・算数：（整数と小数の関係、小数の掛け算・割り算）、 図形分野（図形の性質、角度、図形） ・外国語活動：アルファベット及び単語の読みと意味
生徒M	週2回（水、木） 30分／回 各日の内訳：（水）数学、 （木）英語	I中学校、 相談室	・数学：計算分野（一次方程式）、図形分野（面積、角度、合同） ・英語：単語の読みと意味、動詞の活用（三人称単数現在形）